年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年中は透析医会の諸事業にご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。

我国の透析医療レベルは格段に上昇する一方、その医療環境は益々厳しさを増しております。なお、かつての患者急増の時代はほぼ終焉しつつあると思われます。今後の課題は合併症の予防と治療、QOLの向上、要介護者の治療などが中心となろうと考えられます。

透析技術や補助薬剤の進歩により患者のADLやQOLは近年著しく好転し、延命成績も向上し続けております。しかし他方、高齢者や糖尿病患者の増加など、患者構成に急速な変化が起こっており、透析治療は容易でない局面を迎えております。要介護の問題に加え、独居患者の食事療法の悩みも深刻です。透析治療を意義あるものとするには、かかる福祉的対策と結びつけていくことが必要になろうと思います。

透析療法による長期延命は驚くほどの実績をあげてきています。しかしながら骨・関節症を中心とした合併症の発生はなお十分には阻止できないことは悲しい現実です。この面は医学的な進歩に期待しなければならない点が多いのですが、現状では適切な治療法の強化の必要性は否定できないと思われます。また、透析患者にみられる高率な心臓病死対策も重要課題でしょう。

いずれにしても透析治療はよりマンパワーを要し、ますます地道な努力を要するものとなってまいりました。

近年の医療財政の逼迫は透析医療に特に厳しさを課してきております。7年に及ぶ技術料の据えおきやダイアライザーコストの継続的な引き下げや検査料の定額化などです。合併症対策や安全性の向上のために進歩改良された、より高価な透析器械を使用しなければならず、介護者透析の増加に人手を多く要し、しかも人件費の近年の高騰にも拘らず、また、感染性廃棄物処理費を要するようになったにも拘らず、診療報酬は下がる一方です。最近はまた、透析液や抗凝固剤の使用量にも厳しい注文がなされております。透析医会は良質な透析治療の維持のためにその都度、幾つかの加算を要請し、認めてもらってきました。この面では厚生省当局のご理解には感謝するのでありますが、今年度の改定では我々の要請がどの程度受け入れられるか、情勢が情勢だけに危惧しております。診療報酬対策としてこれまでの方法では限界も感じており、さらに良策の検討を要すると思われます。

日本の透析療法の成績は世界に冠たるものであり、これを作りあげてきた会員の皆様に心から敬意を表したいと存じます。それと同時にこの実績を失ってはならないと思います。多くの患者がそれを知っており、また我国の透析医療に感謝しています。私達は患者の立場にたって今後とも優れた透析医療を創りあげ、提供し続けなければならない責任を負っております。新年にあたりあらためて一層のご努力をお願い申し上げると共に、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

平成6年1月10日

社団法人　日本透析医会
会　長　平沢　由平